

渡辺淳一文学館 ドラマティック ライヴ

Pianist Shino Otaka 30th Anniversary

大高紫乃

ピアノリサイタル
原点 回帰

恩師ラインハルト・ベッカー氏の改訂版による
ベートーヴェン 3大ソナタ
「悲愴」 「月光」 「熱情」

Program

ピアノソナタ 第8番 ハ短調 作品 13 「悲愴」
ピアノソナタ 第14番 嬰ハ短調 作品 27-2 「月光」
ピアノソナタ 第23番 ヘ短調 作品 57 「熱情」

2025.5.17 土

渡辺淳一文学館 地下ホール

Start 15:00 (Open 14:30)

Ticket ¥3,000

会場・主催・ご予約・お問合せ

渡辺淳一文学館

TEL 011-551-1282

札幌市中央区南12条西6丁目414

後援：札幌市・札幌市教育委員会

駐車場のご用意はございません。
公共の交通機関か近隣の駐車場をご利用ください。



Profile



Pianist 大高 紫乃 Shino Otaka

北星学園女子高等学校音楽科、国立音楽大学を経て、ドイツ国立トロッシンゲン音楽大学大学院に最優秀で入学。数々の世界的ピアニストを育てた名教師ラインハルト・ベッカー氏に師事。第3回オストゥーニ国際ピアノコンクール（イタリア）にて入賞。ディプロマ受賞。1995年、ドイツにてソロリサイタルを行ないリサイタルデビュー。同年、ドイツ国立トロッシンゲン音楽大学大学院を審査員満場一致の首席で修了。1996年、第2回若手音楽家のためのオーディション（室内楽部門）にて第2位。ベルリン・フィルのメンバーからは室内楽ピアニストとして絶大な信頼があり、2003年、ベルリン・フィルのメンバーを中心に結成されたティム弦楽四重奏団から直接依頼をうけ、ピアノ五重奏で共演。この公演をきっかけに、翌年にはベルリン・フィル/アマルコルド弦楽四重奏団と全国各地で共演。2015年、世界的ピアニスト、ファズ・フサノフ氏とともに2PIANOSを結成し、2台ピアノのプロジェクトを開始、在クウェート日本大使館の協力のもと、2018年クウェートにて公演、同大使館に招待されたほか、HOUSE OF PIANOSから依頼をうけ、ドバイ（UAE）でも演奏。2022年、札幌コンサートホールKitara大ホールにて、あいプラン「ラブ&サンクスコンサート」で札幌交響楽団と協演。2023年、2PIANOSのCDをリリース。2025年9月、元ベルリン・フィルのヴァイオリン奏者であり、現在ベルリン放送交響楽団のフォアシュピラーであるアンドレアス・ノイフェルト氏とのドイツでの共演が決定している。藤女子大学非常勤講師。リノス音楽アカデミー代表。

【原点回帰】 Pianist Shino Otaka <30th Anniversary>

2025年は大高紫乃にとってピアニスト活動30周年の特別な年である。1995年1月、ドイツにてソロリサイタルを行ない、プロのピアニストとしてデビュー。そして、本格的に室内楽奏者としても活動を始め、ドイツ留学を終えて帰国したのも、この年であった。デビュー30周年となるこの年にリサイタルのプログラムに選んだのは、満を持して、ベートーヴェンの3大ソナタ「悲愴」「月光」「熱情」である。大高紫乃にとってベートーヴェンは特別な作曲家である。音楽高校の入学試験では前期ソナタを弾き、ドイツの音楽大学の入学試験のプログラムには中期ソナタ、イタリアでの国際コンクールには後期のソナタを、そして前記した1995年1月のデビューリサイタルの曲目にもベートーヴェンの「幻想曲」。ターニングポイントの選曲には必ずベートーヴェンの作品があった。留学先をドイツに決めたのも「ベートーヴェンを深く学びたい」からであった。留学中は、さまざまな作曲家の作品を学んだが、最初の半年間は徹底的にベートーヴェンと向き合った。演奏に悩んだ時はベートーヴェンの生家やハイリゲンシュタットの家、そして彼が眠るウィーンの墓地にも足を運んだ。デビュー30周年を迎える2025年は、大高にとって「初心に帰り、今後の活動について改めて考える」まさに「原点回帰」の年である。偶然にも、ドイツでの恩師ラインハルト・ベッカー氏がベートーヴェンのソナタ全曲の改訂版に取り組み始めた。今回のリサイタルでは、「悲愴」と「月光」はベッカー版を使用、「熱情」はまだ出版前のため、オンラインにてベッカー氏からアドバイスをうけて創り上げた。大高紫乃30周年記念ソロリサイタルは、渾身のベートーヴェンとなるに違いない。